

[様式1]

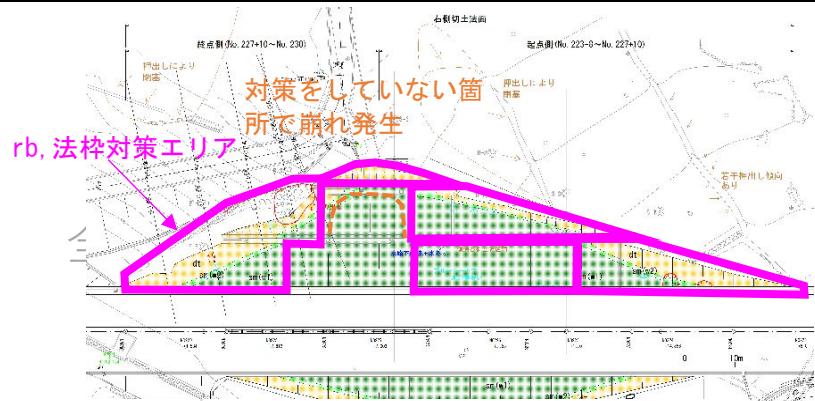
法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 17.0 m 3 段	対策工	抑止工	RB(崩壊箇所外)
所在地	南城市大城			延 長	95 m		抑制工	法枠,側溝(崩壊箇所外),崩壊箇所は植生マット
路線名	南部東道路			法勾配	1 : 1.2 ~ 1 : 1.2	完成年月	令和2年(2020年)6~5月頃?	
地形	崖錐地形, 崩壊跡地(地すべり地), 台地の裾部, 脚部浸食, 集水型斜面, 凸状尾根型斜面, 鞍部							
地質構造	崖錐・崩積土, 風化岩, 固結度の低い岩, 割れ目の多い岩, 流れ盤(層理面、弱線), 不透水性基盤上の土砂							
湧水状況	湧水あり, しみ出程度							

周辺地山の状況(崩壊箇所との相違点や地形地質の違い)

- | | |
|--|-----------------------------------|
| ① 法肩上部地山の割れ目、沈下、浮石 (崩壊部：　・周辺地山：　) | ⑤ 構造物周辺の地盤の洗掘、沈下等 (崩壊部：　・周辺地山：　) |
| ② 法肩上部地山の植生衰退等の変化 (崩壊部：植生繁茂・周辺地山：下段植生若干) | ⑥ 法面排水溝の確保、機能不能の発見 (崩壊部：　・周辺地山：　) |
| ③ 法肩への流下水の集中状況 (崩壊部：縦排水路の下方・周辺地山：　) | ⑦ 法面側方部、下方部からの湧水状況 (崩壊部：　・周辺地山：　) |
| ④ 法面と構造物の境界部の洗掘、割れ目、空洞等 (崩壊部：　・周辺地山：　) | ⑧ その他 |

【平面図】



【地形地質構造】

- 斜面概要：新里層で構成される切土法面、北向き斜面
- 地層構成：表層に新里層劣化層が0.5m(推定)、以深N=10新里層が分布
- 更なる風化劣化の可能性あり
- 地質的特徴：近傍地山には複数の地すべりが分布している。地すべり発生域内の切土法面

【災害・変状概要(要因)】

- 事前対策工：あり (なし)
- 崩壊・変状の発生状況：(2022年5月31日)降雨179.5mm/日後(係数)に崩壊を確認

【断面図】



・素因・誘因：

- (素因)背後に流域を背負う新里層の切土法面で降雨後表面水・表層水等の流れ込みによる表層の劣化
(誘因)豪雨

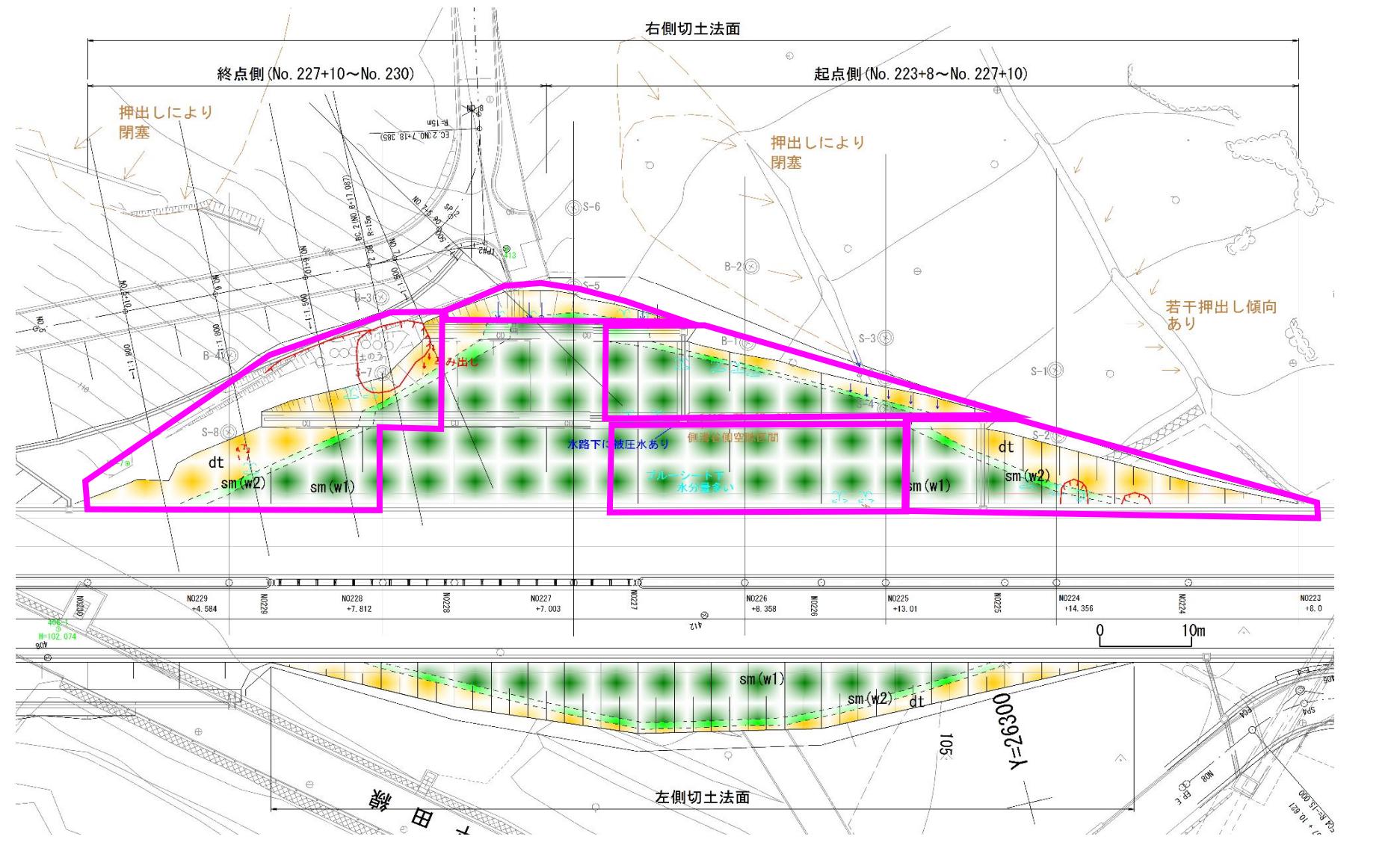
【被災後の対策工】 未対策：未風化面と風化面中に水みちが形成している～今後の形

- 抑制工：成も考慮されるため,恐らく鉄筋挿入工(周辺で採用した対策)の提案が考慮される。
- 抑止工：案が考慮される。
- 設計思想：

[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

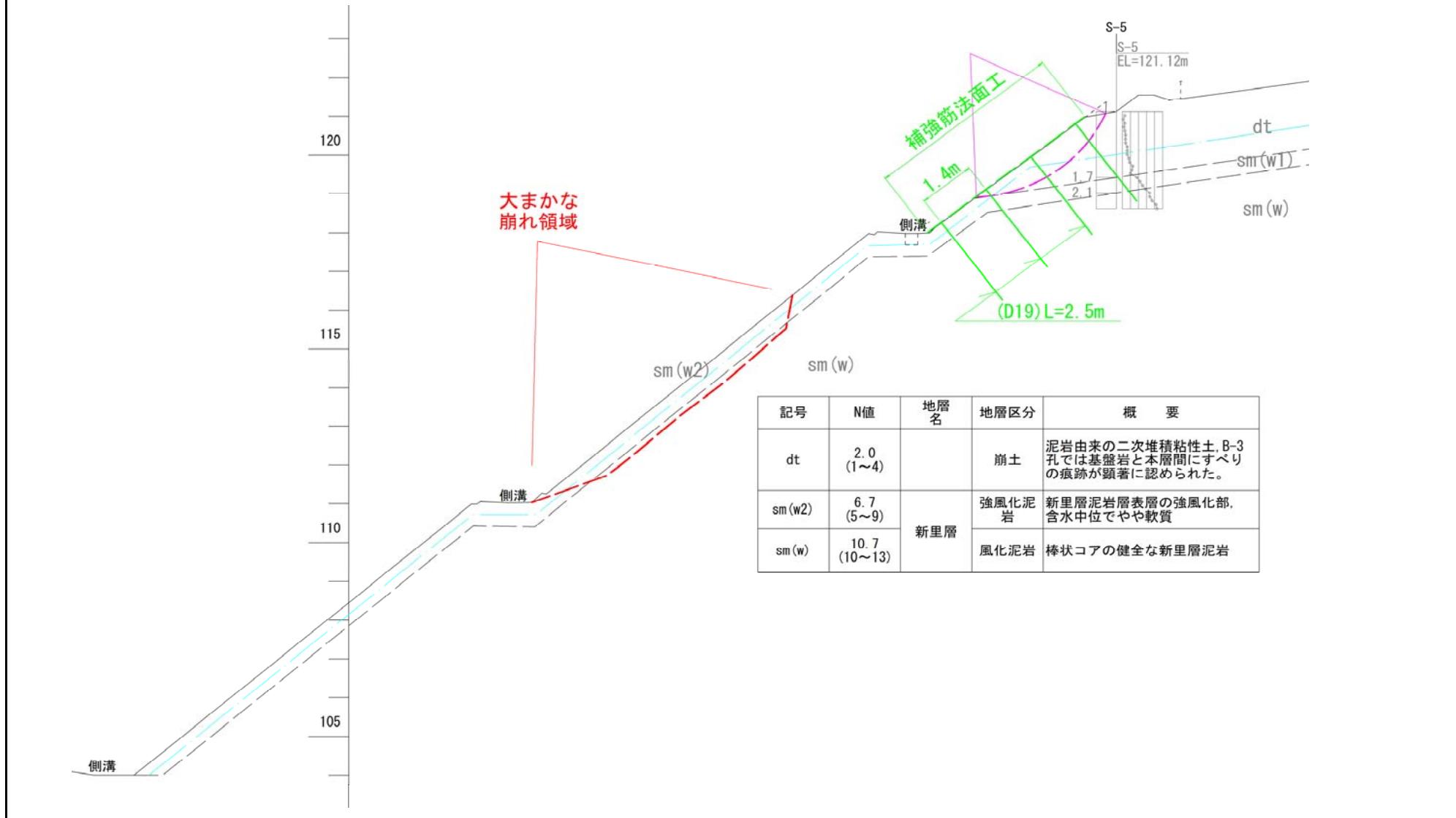
位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 17.0 m 3 段	対策工	抑止工	RB(崩壊箇所外)
所在地	南城市大城		延 長	95 m			抑制工	法枠,側溝(崩壊箇所外),崩壊箇所は植生
路線名	南部東道路		法勾配	1:1.2 ~ 1:1.2		完成年月	令和2年(2020年)6~5月頃?	



[様式2]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

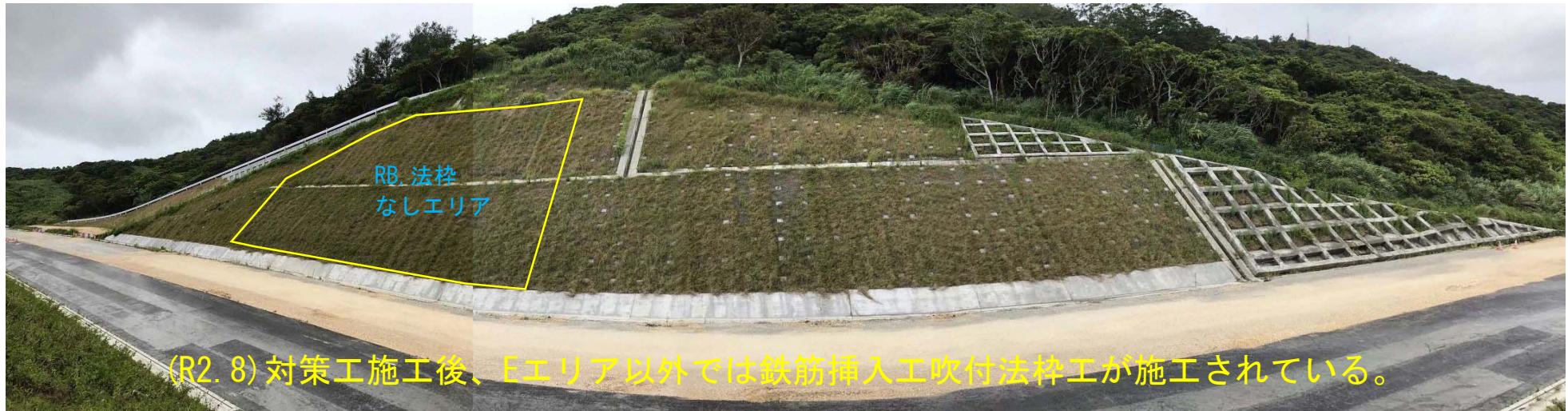
位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 17.0 m 0 段	対策工	抑止工	RB(崩壊箇所外)
所在地	南城市大城	延 長	95 m				抑制工	法枠,側溝(崩壊箇所外),崩壊箇所は植生
路線名	南部東道路	法勾配	1 : 1.2 ~ 1 : 1.2		完成年月	令和2年(2020年)6~5月頃?		



[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 17.0 m 3 段	対策工	抑止工	RB(崩壊箇所外)
所在地	南城市大城		延 長	95 m			抑制工	法枠,側溝(崩壊箇所外),崩壊箇所は植生
路線名	南部東道路		法勾配	1 : 1.2 ~ 1 : 1.2		完成年月	令和2年(2020年)6~5月頃?	



[様式3]

法面調査カルテ（斜面の概要、被災・変状の発生状況）

位置番号	①	報告書No.	1	法 高	高さ 17.0 m 0 段	対策工	抑止工	RB(崩壊箇所外)
所在地	南城市大城			延 長	95 m		抑制工	法枠,側溝(崩壊箇所外),崩壊箇所は植生
路線名	南部東道路			法勾配	1 : 1.2 ~ 1 : 1.2	完成年月	令和2年(2020年)6~5月頃?	

